

平成 19 年度学術ポータル担当者研修レポート

福島県立医科大学

附属学術情報センター

11-1 佐久間裕

11-2 佐藤和憲

11-3 西戸雅博

(1) 発表資料の状況設定

研修時の状況設定は、「附属学術情報センター運営委員会および同情報部会にて、機関リポジトリの概要および実験システム構築について説明を行う」としていた。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

発表内容抄録

- ①機関リポジトリとは…大学で生産された電子的な知的生産物を、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫
- ②機関リポジトリの意義(研究者、大学、学外の研究者にとって)…引用される機会が増える、社会に対する説明責任など
- ③コンテンツ…雑誌掲載論文、学位論文などが考えられる
- ④雑誌掲載論文の著作権…海外の多くの出版社が雑誌掲載論文の機関リポジトリへの搭載を認めている。ただし、認めてられているのは著者最終稿である場合がほとんど
- ⑤著者最終稿と出版社版…著者最終稿とは、アクセプトされることとなった最終確定稿のこと
- ⑥リポジトリ実験システム
- ⑦登録の流れ

発表資料改訂

研修時点では、実際にコンテンツを集めて実験システム構築する予定であったが、リポジトリ立ち上げの具体的な目処がついていない段階でのコンテンツ収集は時期尚早であると考え、予定していたかたちでの実験システム構築は見送った。また、現時点では、まずセンター職員の機関リポジトリに対する理解を深めるのが重要と考え、プレゼンテーションをセンター職員向けとした。これを踏まえ、以下のように発表資料を改訂した。

- ①リポジトリ実験システムに関する部分を割愛。
- ②リポジトリ立ち上げまでの業務や、立ち上げ後のルーティンワークに関するスライドを追加。コンテンツの集め方としては、文献データベースで学内発の最新文献を把握し、それをもとに提供を呼びかけるという方法を取り上げた。
- ③出版社の著作権ポリシーの確認に関するスライドを追加。「SHERPA/RoMEO」や「学協会著作権ポリシーデータベース」、また出版社のポリシー例を取り上げた。

(3) リハプレゼンの概要(日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.)

日時:2007年11月16日(金)9:00~9:50

場所:附属学術情報センター センター長室

発表者:西戸

参加者:センター職員7名(うち学術ポータル担当者研修受講者3名)

*パワーポイントを使った説明の他に以下のデモを行った。

- ・当センターで実験的にインストールした Dspace への接続
- ・SHERPA/RoMEO での著作権ポリシー調査

(4)リハプレゼンへの反響(アンケートをとった場合の結果、感想の声等)

質疑

Q. 研究者データベースとの関係はどうなるのか。

A. 研究者データベースからリポジトリのコンテンツにリンクが張れるようになっている。それ以外の連携は今後検討。

Q. 著者版原稿の図表レイアウトを出版社版のように整えているところはあるか。

A. そのような事例を聞いた事はない。一般に、図表はテキストの最後に付け足されるかたちで PDF 化されているようである。

Q. ハンドルサーバとは。

A. ドメイン名やサーバ名が変更されても、コンテンツの URL は変わらないようにするためのサーバ。登録料およびサービス料(10年払い可)が必要。

(5)その他(備考、今後の予定と希望 etc.)

- ・研修後、機関リポジトリシステムの実験的構築として、Dspace および EPrints をインストールした。